

食の国際交流と豊かな食生活をめざして

日本通として知られ、ヨーロッパの生活も経験されて、文字通り国際的な味覚を持たれた元米国駐日大使・故ライシャワー博士は、「食の国際交流」が世界中の人々に豊かな食生活をもたらしていることを、当社に寄せたメッセージのなかで述べられています。そしてその例証として、日本人の食生活に欠かせない基礎調味料・しょうゆのアメリカ進出と成功を取り上げています。

また評論家の花田清輝は「真にナショナルなのは、実はインターナショナルである」と喝破しま

したが、まさにしょうゆについて述べているかのようです。

このように一国の食文化が、世界各国の文化に融け込み、新しい食文化として芽生え、成長するとき、人々のより豊かな食生活が育まれるのです。

当センターの活動が、日本はもちろん世界の国々の食の歴史や食文化の紹介にとどまらず、「食の国際交流」と「食育」に少しでも寄与できるよう努めていきたいと思えます。

キッコーマン国際食文化研究センター



閲覧コーナー



キッコーマンの故郷—野田の町並みに調和した野田本社



図書コーナー



メディアコーナー



企画展示コーナー

<http://kiifc.kikkoman.co.jp/>

キッコーマン国際食文化研究センター

〒278-8601 千葉県野田市野田250 TEL:04-7123-5215 FAX:04-7123-5218

<開館時間>午前10時～午後5時 <休館日>土・日曜日、祝日、年末・年始、ゴールデンウィーク、旧盆

※詳細は当センターへお問い合わせください。



表紙の解説

「台所美人」(喜多川歌麿作)

江戸町内十数か所に設けられていた時鐘楼で朝の時を告げる鐘が鳴り始めると、江戸城周辺の見附門や町中の木戸が開放され、江戸人の一日が始まる。丸い茄子をむいている女性をはじめ、夏場の長屋の共同職で朝餉を支度する女性たちが描かれている。汁椀を拭いている母親は、眠り足りないのか幼児がまとわりついている情景は、子供を殊のほか大切に育んでいた江戸社会の子供への情愛を感じずにはいられない一幅の絵であるといえよう。

